

女性活躍「えるぼし認定」

県内運輸業初 保育園で社内活性化

中田商事

【三重】中田商事（中田純一社長、三重県伊賀市）は4日、女性活躍推進で一定の要件を満たした企業に与えられる「えるぼし認定」の認定証を厚生労働省から交付された。日本標準産業分類に基づく「運輸業・郵便業」としては県内初の認定取得となった。

えるぼし認定は①女性労働者比率②女性労働者の継続就業③労働時間④女性管理職比率⑤女性労働者のキャリアアップの各項目について、要件を満たした企業が取得できるもので、上から「プラチナ」「3つ星」「2つ星」「1つ星」の順番にランク付けされる。中田商事は、5項目のうち3項目をクリアし、2つ星に認定された。



（右から）中田社長、鈴木氏、藤森氏、西田三重労働局長

同日、伝達のため同社を訪問した三重労働局の西田和史局長は、中田社長に認定証を手渡し、「人手不足や労働環境の問題がある中、県内の運輸・郵便分野では初の認定を喜ばしく思う。中田氏の先を読む力と決断力が、新たな雇用環境

を創出していることに感心した」とあいさつ。中田氏は「ドライパー不足という課題に取り組み中で、女性を含めた人材の確保と活用を模索してきたが、企業主導型保育

園の運営を行い、保育士、調理士、事務員を直接雇用していることも、我が社の女性社員比率を上げることにつながっている」と明かした。

その上で、「保育園の存在が、産休・育休明けの女性ドライパーの職場復帰を

助けているほか、個々の適性に応じた配置転換などにも役立っている。女性活躍の推進が働き方改革に直結し、社内全体が活性化している」と説明。

女性管理職も喜んでい

る。えるぼし認定の申請を担当した情報管理室の藤森純子室長は「我が社は女性社員の比率が4割を超えているが、男女のバランスがとても良く、互いに切磋琢磨できる職場環境が生まれている。労働時間など物流企業にとって高いハードルもあるが、次は3つ星を目指したい」と力を込める。

四日市営業所（四日市市）の鈴木ゆり運営管理マネージャーは「当営業所でも多くの女性ドライパーが活躍し、男性ドライパーの育休取得にも全員で協力している。女性が頑張る姿が、社内全体の良い刺激になっている」と話した。（星野誠）